

学校（自己）評価（令和1年度）

令和2年6月作成

1・本園の教育目標

- ① 心身ともに逞しい子どもの育成
- ② おおらかで、明るい子どもの育成
- ③ 知性豊かで、賢い子どもの育成

〒901-0301

- ・沖縄県糸満市字阿波根 746 番地
- ・学校法人 津山学園
- ・認定こども園 津山幼稚園
- ・TEL 098-994-6714

2・令和1年度主要目標

- 1・本園教育目標の達成に努力する。
- 2・文部科学省幼稚園教育要領を踏まえ、本園の特色（動き・リズム・言葉感覚）を加味し、豊かな人間性の根っこを培うよう努力する。
- 3・令和1年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。
- 4・園児定員充足率100%を目指し、地域の子育て支援に努力する。
- 5・教職員の質の向上を目指して、内・外研修を増やし幼児教育に対する認識と理解を深める。
- 6・満3歳児の年少組への組み入れ。
- 7・配食業者の見直し。
- 8・所有地の有効活用。

3・評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1・本園教育目標の達成に努力する。	本園の教育目標である「心身ともに逞しく、明るく、知性豊かで賢い子」の土台づくりに向けて、体系立った年間・月間・日ごとの保育計画を設定実施し、記録・反省しながらよりよい保育を遂行した。
2・文部科学省幼稚園教育要領を踏まえ、本園の特色（動き、リズム、言語感覚）を加味し豊かな人間性の根っこを培うよう努力する。	人間性の根っこを培うために、幼稚園教育要領の理解を全職員で積極的に推進し具体的な場面について話し合った。豊かな感性を育むためのことば、動き、リズムを基調とした環境設定に配慮して教育内容の精選と充実を図った。
3・令和1年度の保育行事計画を設定し、年間、学期、月別に活力に満ちた保育を実践し、子どもたちの健やかな成長を育む。	母の日、父の日のエレクトーンコンサートの実施や、アポロ科学実験ショーなど子どもたちの興味関心をそそる行事を実施した。また、園の畑で栽培したサトウキビを素材とする黒糖造りを体験させることにより、食育による食文化の継承にもつながった。
4・園児定員充足率100%を目指し、地域の子育て支援に努力する。	本園の園児定員は210人である。これに対して令和1年5月1日現在の園児数は195人で定員充足率93%となり計画目標をほぼ達成し、地域の子育て支援にも貢献した。

5・教職員の質の向上を目指して、内・外研修を増やし幼児教育に対する認識と理解を深める。	教職員の質の向上を目指し、園内外研修を増やし教職員の心得、教育技法、コミュニケーション能力を更に高めた。特に子どもたちの体力づくり、表現活動、そして人間関係面には力を注ぎ、健やかな成長をみることができた。
6・満3歳児の年少組への組み入れ。	幼児教育・保育の無償化の試行に伴い、満3歳児を年少組に組み入れた。
7・配食業者の変更。	食物アレルギー対応に主眼を置き、配食業者の選定、変更を行った。
8・所有地の有効活用。	3歳未満児の小規模園を別館として整備するための確認申請を行った。

4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

幼児教育の本旨を念頭に置き、自園の教育目標達成を目指して、全職員努力した。幼稚園教育要領の理解に努め、本園の特色を加味して、計画・実施・反省・評価をくりかえし、よりよい保育を追求した。少子化の中、定員充足率93%であり、本園教育に対する地域並びに保護者からの評価も良好で、概ね目標を達成できたと評価している。

5・今後の取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組みの方法
小規模園の設置	3歳未満児の小規模園の調査研究を行い、地域の子育て支援への貢献をとおして当園の安定した園児確保につなげる。
内外研修会や研究会参加後の情報共有	各種研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会等において提供し、共有化を図るようにしていく。
通園バス路線の見直し	利用者増等に鑑み、通園バス路線を見直し、より効率的な送迎を行う。
IT化の推進	登園管理を初めとする多角的管理システムを導入し、業務の効率化を図る。
先生方の事務量の軽減	PCを導入し指導要録・カリキュラム作成作業の電子化を図る。

6・財務状況

- ・ 当園の財務指標は日本全国の私立幼稚園財務分析指標(全日私幼連要覧)から見て良好である。
- ・ 税理士、所管庁の指導をうけながら、学校法人会計基準を踏まえて適切に処理している。
- ・ 公認会計士監査、園監事による監査により、適正に運営されていると認められている。